

小・中学校教育実習における実習生のための 教育実習自己評価シートの開発

長谷川 順一・山岸 知幸・川地 由美*・山内 秀則**・三好 一生***
(数学教育) (附属教育実践総合センター) (附属高松小学校) (附属坂出小学校) (附属高松中学校)

吉井 雅英***・山下 さゆり****
(附属高松中学校) (附属坂出中学校)

760-8522 高松市幸町1-1 香川大学教育学部
*760-0017 高松市番町5-1-55 香川大学教育学部附属高松小学校
**762-0031 坂出市文京町2-4-2 香川大学教育学部附属坂出小学校
***761-8082 高松市鹿角町394 香川大学教育学部附属高松中学校
****762-0037 坂出市青葉町1-7 香川大学教育学部附属坂出中学校

Development of a Teaching Practice Self-Assessment Sheet for Student Teachers at Elementary and Junior High School

Junichi Hasegawa, Tomoyuki Yamagishi, Yumi Kawaji*, Hidenori Yamauchi**,
Kazuo Miyoshi***, Masahide Yoshii*** and Sayuri Yamashita****

Faculty of Education, Kagawa University, 1-1 Saiwai-cho, Takamatsu 760-8522

**Takamatsu Elementary School Attached to the Faculty of Education, Kagawa University,
5-1-55 Ban-cho, Takamatsu 760-0017*

***Sakaide Elementary School Attached to the Faculty of Education, Kagawa University,
2-4-2 Bunkyo-cho, Sakaide 762-0031*

****Takamatsu Junior High School Attached to the Faculty of Education, Kagawa University,
394 Kanotsuno-cho, Takamatsu 761-8082*

*****Sakaide Junior High School Attached to the Faculty of Education, Kagawa University,
1-7 Aoba-cho, Sakaide 762-0037*

要 旨 教育実習生のための教育実習自己評価シートについて、附属小・中学校での教育実習で使用できるように表現や文言を修正するなどを使用した。実習後に実施した主免教育実習生に対する調査の結果、自己評価シートを否定的に捉えている学生は3割以下であった。また、附属小・中学校教員の意見をみると、自己評価シートは概ね肯定的に捉えられていた。それらの結果をもとに、自己評価シートの使用法など、今後の課題に言及した。

キーワード 教育実習 自己評価 評価シート 小学校主免実習 中学校主免実習

1 はじめに

香川大学教育学部（以下では「本学部」という）では、学部教員と附属学校教員による共同研究プロジェクトの一環として、教育実習生が用いる教育実習自己評価シートの開発を行ってきた。本稿は、その第4報にあたる。教育実習自己評価シートは、教育実習生が自己評価シートに記載された項目を目標とし、それらに照らして自身の教育実践・教育活動を反省的に捉えるとともに、達成できた項目とそうでない項目を明確にし、今後の教育実習の目標の明確化・意識化を促し、それを通して教育実習に主体的・能動的に参加し学習を進めることができるようになることを目的として開発を進めてきたものである（長谷川他，2011a，2011b，2012）。表1は、これまでの取り組みの概要を示したものである。

表1 これまでの取り組み

年度	内 容
2008	基礎的調査の実施（附属高松小学校，3年次主免教育実習生対象）
2009	教育実習自己評価シートの作成と試行的実施（附属高松小学校）
2010	教育実習自己評価シート使用校の拡大（附属高松・坂出小学校）
2011	教育実習自己評価シート使用校種の拡大（附属高松・坂出小学校，附属高松・坂出中学校）

教育実習自己評価シートとして、「教育実習全般に関する自己評価シート」と「授業の実施に関する自己評価シート」の2種類を作成した。前者は教育実習生が行う教育実践・教育活動を項目として示し、1週間の活動を振り返って数値で示された5段階の内の該当箇所に○印をつけるようにしたものである。本自己評価シートは教育実習第1日目に一度記入させ、その後は毎週末に記入させるようにした。また、後者の授業の実施に関する自己評価シートは、教材研究、指導案の作成、授業の実施の3観点から授業を振り返るものであり、教育実習校で授業を

実施後に記入して（該当する箇所に○をつけ）、授業の協議などに臨むようにしたものである。2種類の教育実習自己評価シートは、教育実習生が記入していることを附属学校の担当教員に確認してもらうようにした。但し、それは記入を促すためであり、記入内容が教育実習の評定とは無関係であることは、教育実習生に強調して伝えるようにした。なお、この年度に使用した教育実習自己評価シートは、本稿末尾に示している。

表1に示したように、2011年度には2種類の教育実習自己評価シートを、本学部附属中学校での教育実習でも使用するようになった。そのため、これまで用いていた教育実習自己評価シートに修正を加えた。まず次節では、あらたに修正を加えた点の概要を示す。次に、教育実習自己評価シートを用いた3年次の小学校主免教育実習生及び中学校主免教育実習生を対象とした自己評価シートに関する調査の結果を示す。そして、教育実習生の指導に当たっている附属小中学校教員の教育実習自己評価シートに対する意見を概観する。それらをもとに、教育実習自己評価シートについての今後の検討課題に言及する。

2 教育実習自己評価シートの修正

表1に示したように、これまでは専ら小学校での使用を前提として教育実習自己評価シートを作成してきたが、中学校でも使用できるようにするために、表現や文言などに修正を加えた。ここでは修正の方針を示す。

2.1 教育実習全般に関する自己評価シート

前年度までは60余りの項目から構成していたが、項目数を41に減じることとした。それは、本自己評価シートに対して、これまでに次のような意見が寄せられていたからである。

- ・項目数が多く記入が大変である
- ・「教育学・心理学の知識」のように教育実習中には改善することが困難な項目もある

・教材研究や指導案作成、授業の実施に関する内容は、もう1つの自己評価シート（授業の実施に関する自己評価シート）と重なる

そこで、「教育学・心理学の知識」や「本校の教育目標の理解」など、教育実習に深く関連してはいるが教育実習期間中に繰り返して自己評価を求める必要はないと思われる項目は削除することにした。また、授業の実施に関する自己評価シートとの重なりがあることから、教材研究、指導案作成、授業の実施については、大きな見出しのみを残し、それ以外の項目は削除した。逆に、教育実習の評価観点（評定の観点）の概要が学生にも配布・提示されるようになったことから、評価観点の項目に対応する「挨拶をするなど場に応じて振る舞う」「自分の行った教育活動をふり返り教育実践力を高めようとする」などの項目を新たに加えるようにした。その結果、全体の項目数は41になった。

また、以前は「児童」としていたところを「児童・生徒」と改めるなどして、中学校での使用にも対応し得るようにした（次に述べる授業の実施に関する自己評価シートについても、「児童・生徒」と表現を改めた）。

2.2 授業の実施に関する自己評価シート

授業の実施に関する自己評価シートはA～Dの4段階で自己評価するようになっているが、この内、これまでDとCでは否定的な表現を用いた文章で達成の程度を示していた。今回の修正では、D、Cの項目について否定的な表現を用いないように修正した。それに伴い、BやAの項目でも表現を変更した。表2は、これまで使用していた授業の実施に関する自己評価シートの項目と修正を加えたものの例である（項目は「① 児童の実態把握・授業内容の理解・教材研究・教材作成」の「児童・生徒の実態把握」についてである）。

表2 表現の修正事例

	修正前	修正したもの
D	授業観察や授業以外の場での児童の実態把握がなされていない。	他の実習生の授業や休み時間の児童・生徒の様子を観察している。
C	授業観察や授業以外の場での児童の観察、必要な場合には調査を行うなどして児童の様子を見取ろうとしているが、学級の大まかな反応傾向を把握するにはいたっていない。	他の実習生の授業や休み時間の児童・生徒の様子を観察し、児童・生徒の反応や行動の傾向を把握しようとしている。
B	授業参観や授業以外の場での児童の観察、必要な場合には調査を行うなどして、本時の展開に関する範囲で、学級の大まかな反応傾向を把握している。	他の実習生の授業や休み時間の児童・生徒の様子を観察、必要な場合には調査を行うなどして、個々の児童・生徒の反応や行動の傾向を把握しようとしている。
A	授業参観や授業以外の場での児童の観察、必要な場合には調査を行うなどして、本時の展開に関する範囲で、個々の児童の反応傾向をおおよそ把握している。	他の実習生の授業や休み時間の児童・生徒の様子を観察、必要な場合には調査を行うなどして、個々の児童・生徒の反応や行動の傾向をおおよそ把握している。

このように表現を肯定的なものとすることで自己評価がしやすくなり、DやCの項目についても受け入れることができるようになったのではないと思われる。

3 自己評価に関するアンケート調査

教育実習自己評価シートを使用した教育実習生の内、3年次主免教育実習生を対象として教育実習自己評価シートについての調査を実施した。ここでは、調査の概要及びその結果を述べる。

3.1 調査の概要

教育実習自己評価シートが教育実習を行うにあたって有効だと考えられていたかを明らかにするために、教育実習期間中に自己評価シートを使用した実習生のうち、教育学部学校教育教員養成課程3年次生を対象とし、10月下旬に実施された教育実習全体事後指導時にアンケート調査を実施した。回答は無記名であり、設問は2種類の教育実習自己評価シートのそれぞれについて「あなたが教育実習を行う上で有用あるいは効果的でしたか」とし、次の5つからの選択回答を求めるものであった。《①有用あるいは効果的だった、②どちらかというと有用あるいは効果的だった、③どちらともいえない、④どちらかというと有用でも果的でもなかった、⑤ほとんど有用でも効果的でもなかった》である。さらに、それぞれの選択肢の選択理由の記述を求めた。また、卒業後の進路希望についても、8つの選択肢を設け選択回答を求めた（選択肢は次の節で示す）。

3.2 調査の結果

本学部の学校教育教員養成課程3年次生で、小学校主免教育実習生（小学校サブコース生）58名（今年度の小学校主免教育実習生の95.1%）、中学校主免教育実習生（中学校サブコース生）50名（同じく中学校主免教育実習生の92.6%）からの回答が得られた。

（1）卒業後の進路希望

表3は、卒業後の進路希望の結果を示したものである。上部見出しの「小学校」「中学校」は、それぞれ3年次の小学校主免教育実習生、中学校主免教育実習生を、「合計」はそれらを合わせたものを表している。

表3 卒業後の進路希望

	小学校	中学校	合計
① 採用試験の可否に関係なく、どうしても教師になりたい。	30 51.7%	25 50.0%	55 50.9%
② 卒業時の採用試験に合格すれば教師になるが、不合格の場合は他の職に就く。	8 13.8%	7 14.0%	15 13.9%
③ 教員採用試験は一応受験するつもりだが、第1希望の職種は別にある。	4 6.9%	3 6.0%	7 6.5%
④ 教員以外の仕事に就きたいので、教員採用試験は受けなつもりだ。	6 10.3%	3 6.0%	9 8.3%
⑤ 小、中、高、特別支援学校、幼稚園などの教師になることをめざして大学院などの進学を考えている。	0 0.0%	2 4.0%	2 1.9%
⑥ 上記⑤以外のことを目的として大学院などの進学を考えている。	0 0.0%	2 4.0%	2 1.9%
⑦ 未定	6 10.3%	4 8.0%	10 9.3%
⑧ その他	0 0.0%	2 4.0%	2 1.9%
無回答	4 6.9%	2 4.0%	6 5.6%
合計	58 100%	50 100%	108 100%

教職を志望していると考えられる①、②、⑤の何れかを選択したものは全体の66.7%であった。

(2) 教育実習自己評価シートに対する評価

図1, 図2は, 教育実習自己評価シートに対する選択回答の分布を表したものである。見出しの「小学校」「中学校」は, それぞれの主

教育実習生を, 「合計」は全体の結果を表す。帯グラフのそれぞれの区分内に示した数値は, 当該の選択肢を選択したものの人数を表す。

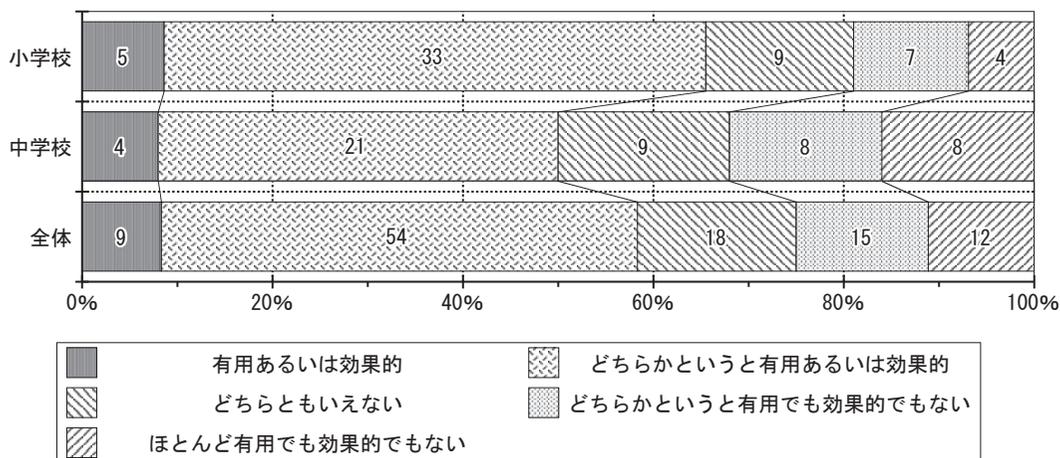


図1 教育実習全般に関する自己評価シートについての回答分布

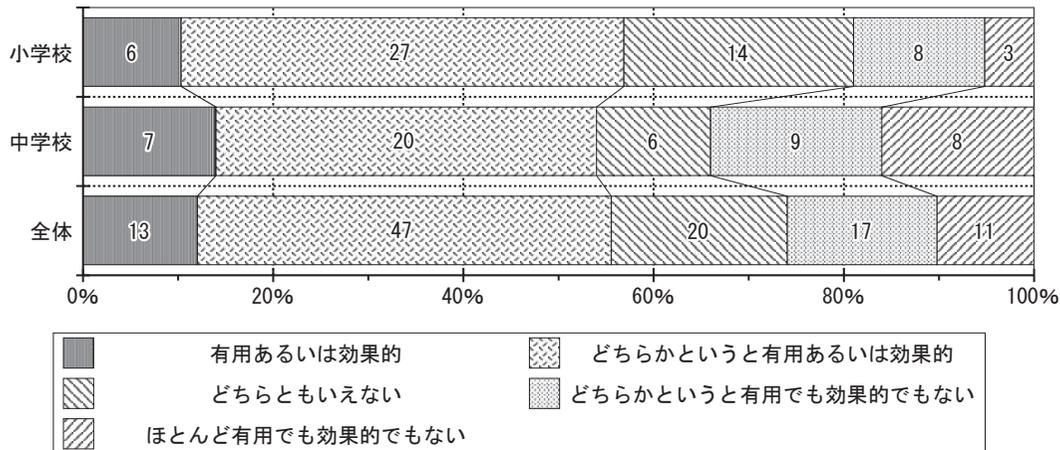


図2 授業の実施に関する自己評価シートについての回答分布

2種類の自己評価シートについて, 小学校主免教育実習生と中学校主免教育実習生の回答分布に有意な差はみられなかった(教育実習全般: $\chi^2(4) = 3.61$, 授業の実施: $\chi^2(4) = 6.09$)。全体の結果をみると, 2種類の自己評価シート共に, 半数以上のものが「有用あるいは効果的」

に対して肯定的に回答している。先にも述べたように, 2010年度には小学校主免教育実習生が2種類の自己評価シートを用いており, その際も, ここに述べた調査と同一の設問によって調査が行われた(長谷川他, 2012)。図3は, その結果を示したものである。

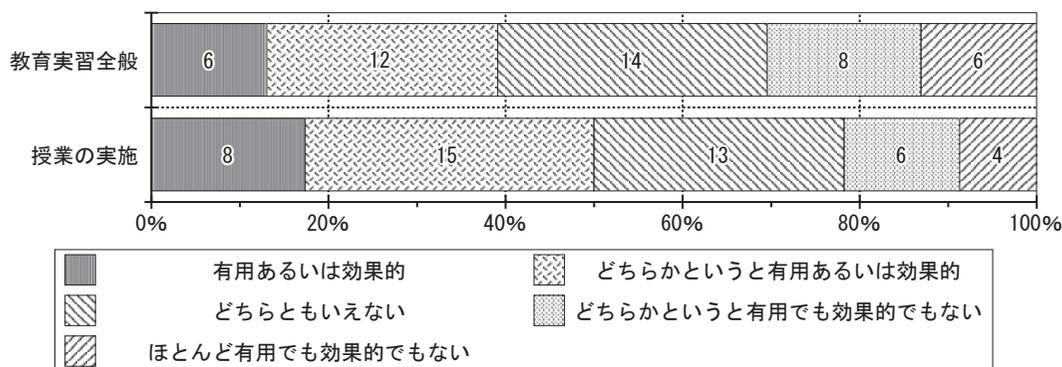


図3 小学校主免実習生を対象とした2010年度調査の結果

教育実習全般に関する自己評価シート、授業の実施に関する自己評価シートのそれぞれに対する小学校主免教育実習生の評価について、2(2010年度調査と2011年度調査)×5(5選択肢)の分割表に対してカイ2乗検定を行った。その結果、教育実習全般に関する自己評価シートでは有意差がみられ($\chi^2(4) = 10.20, p < .05$)、残差分析の結果、「どちらかというと有用あるいは効果的」を選択したものが、2010年度では有意に少なく2011年度では有意に多かった($p < .01$)。授業の実施に関する自己評価シートでは有意差はみられなかった($\chi^2(4) = 2.83$)。教育実習全般に関する自己評価シートは項目数を削減したが、授業の実施に関する自己評価シートでは項目数の削減は行わなかった。項目数が40程度で、簡便に使用できることが重要であるのかもしれない。

選択解答の理由については、これまでの調査でみられたものと同様であった。すなわち、効果的に捉えているものは自己評価シートの目標に沿った記述をしていた。否定的に捉えているものは、時間不足、教育実習中の放課後に実施される協議会や反省会で十分などとしていた。

4 附属小・中学校の教育実習生指導教員からの意見

教育実習自己評価シートの改善及びそれを用いた指導法を検討するため、教育実習生の指導

にあたっている附属小・中学校教員の意見を収集した。その結果、教育実習自己評価シートは概ね肯定的に受け止められていた。附属小学校教員からは、これまでに報告したものと同様の意見、つまり教育実習生が目標を明確にもって実習を行うことができる、実習生がどのように自己評価しているかを把握することで指導にも役立つなどの意見がみられた。

附属中学校では今回初めて教育実習自己評価シートを用いたが、中学校教員からも小学校教員と同様、概ね肯定的に受け止められていた。以下に、寄せられた意見を抜粋してみる。

- ・実習生が自己の具体的な目標をシートをもとに把握することができ、それをもって実習を進めることで、自らの振り返りができ自己を見つめ直すことのきっかけになったのではないか。
- ・自己の改善案を明確にすることができ、それが以降の取り組みへの見通しを持たせることにつながった。
- ・教員にとっても学生指導に利用できる。

このような指摘は、これまで附属小学校教員から寄せられた意見とほぼ同じである。一方、次に示すような教育実習自己評価シートの問題点や今後の課題についての指摘もみられた。

- ・教育実習自己評価シートの意義や自己評価の

適切な方法を、事前に学生に周知しておくことが必要である。

- ・自己評価シートへの記入を繰り返していくうちに、まとめて書くようになるなど、マンネリ化が起こるのではないか。
- ・学生の負担増になる。
- ・学生の変容が見られるものになっているか。
- ・教育実習生自身による自己評価と指導教員からの評価とのずれをどのように考えるか。

上記のような指摘は、教育実習自己評価シートの改善点を示唆し利用の可能性を示すものである。また今後、指導教員の指導に役立つあたりでの運用方法や内容の再検討が必要なことを指摘したものと捉えられる。

5 考察

2種類の教育実習自己評価シートに対する3年次主免教育実習生の評価をみると、否定的な回答は何れも3割以下であった。教育実習生を指導する附属小・中学校教員も、教育実習自己評価シートを概ね肯定的に捉えていた。これらの結果を踏まえつつ、以下では次の3点について検討を加えたい。

- ①教育実習自己評価シートの目的
- ②教育実習自己評価シートを用いた指導
- ③教育実習自己評価シートの各項目の対象化

①教育実習自己評価シートの目的

教育実習自己評価シートは、教育実習生が教育実習中に実践したり実施したりすることが望まれる行動、保持することが望まれる態度傾向や知識・技能などのリスト、及びそれらに対する数値や文章などによる段階の表示からなる。それをを用いることによって、教育実習生が自己評価シートに記載された項目を目標とし、それに照らして自身の教育活動や教育実践を反省的に捉えるとともに、達成できた項目とそうでない項目を明確にし、また今後の教育実習での目標を明確化・意識化し、それを通して教育実習

に主体的・能動的に参加し学習を進めることができるようになることを目的として開発を進めてきたものである。このように、教育実習自己評価シートの目的は、基本的には個々の教育実習生の主体的・能動的な学習を促すことにある。

したがって、教育実習自己評価シートがそのような目的のもとに作成されていることを、教育実習生及び教育実習の指導教員に周知する必要がある。これまでも指導教員には教育実習自己評価シートの目的や使用方法などを説明した文書を配布したり、さらに口頭で説明を加えたりしてきた。教育実習生には、教育実習初日に各校で実施される集会などで説明を行うようにしてきた。しかし、まだその目的の周知に十分には至っていないように思われる。この点については、次に述べる指導のあり方にも関連させて考えていく必要がある。

②教育実習自己評価シートを用いた指導

先に述べた教育実習自己評価シートの目的については、様々な機会を通して教育実習生に周知し理解を促す必要がある。さらに、例えば教育実習自己評価シートの各項目の一般的な記載を自分自身の教育活動に基づいて具体化し、次の日の活動を具体的に描いてみるなど、その使用方法についても指導する必要がある。

また、第1報で報告したように、教育実習生の自己評価と教育実習生の指導教員による教育実習生評価を比較すると、全体的にはよく似たパターンを示してはいるものの、いくつかの項目で乖離がみられた。すなわち、教育実習生は「できている」と自己評価していても、指導教員は「まだまだ」と評価される項目もいくつかみられるのである。このことから、教育実習生の自己評価に対して指導教員が評価を加え、それをもとに教育実習生と指導教員が協議する機会をもつことが重要である。このように、教育実習自己評価シートの目的、使用方法、指導教員から評価を得ることによる自己評価の修正など、教育実習自己評価シートを用いた様々な指導方法が考えられる。

繰り返しになるが、教育実習自己評価シート

は教育実習生の主体的・能動的な学習を進めることを目的としていた。それを旨とする、教員のこの評価シートを用いた有効な指導を考えると、何を、どこで、どのように、どこまで指導するかが課題となつてこよう。そこには例えば、指導教員は教育実習生が記入した教育実習自己評価シートの全ての項目に対して目を通すのではなく、実習生のそれぞれに応じて気になる項目だけを点検し、自己評価の理由を実習生に問う。それを通して教育実習生の教育活動を指導するなどの方法も考えられる。自己評価の目的については、学部の授業をはじめ様々な機会を通して周知し、理解を促すことが重要である。

③教育実習自己評価シートの各項目の対象化

②では教育実習自己評価シートを用いた教育実習生への指導課題について述べた。しかし、ここでもっとも重要なことは、実習生自身が、本自己評価シートの各項目が適切であるかどうかを教育的観点から批判的に検討を加えるとともに、自身にとってそれが適切・妥当かどうかを判断（対象化）し、最適の自己評価の項目を自らが作成できるようになることであろう。教育実習自己評価シートに記載されていないあらたな項目を立てられるようになることが重要なのである。このような自分自身を含む教育に関する諸事象について教育的観点から検討できるようになることは、教員養成の目的の1つでもあろう。こうした観点から、教育実習に関わる教員の指導のあり方を考えていくことも、今後重要となつていくであろう。なお、これらの点については第3報でも報告したので参照されたい。

今後は、附属小学校と附属中学校の教員が、本教育実習自己評価シートを用いた教育実習生の指導方法について、意見交流をもつ機会を設定することなどが望まれる。また、幼稚園及び特別支援学校での教育実習で用いる教育実習自己評価シートの作成も課題であるが、それには、それぞれを専門とする教員の協働的参加な

くしては開発は困難である。そのようにして附属学校園での教育実習で用いる教育実習自己評価シートが得られた後も、自己評価シートの各項目を不断に点検し、教育実習生にとって有用な自己評価シートへと継続して修正・改訂を加える必要がある。

文 献

長谷川順一・井本正隆・田崎伸一郎・辻幸治・宮脇充広・高尾明博（2011a）「教育実習生のパフォーマンスを評価する評価観点の開発研究（1）－3年次小学校主免教育実習生を対象とした基礎的調査とその結果－」香川大学教育実践総合研究、第22号、pp.1－12

長谷川順一・宮脇充広・大嶋和彦・石井都・住田恵津子・河田祥司・山西達也（2011b）「教育実習生のパフォーマンスを評価する評価観点の開発研究（2）－自己評価シートの開発と試行－」香川大学教育実践総合研究、第22号、pp.13－24

長谷川順一・田村道美・山岸知幸・大嶋和彦・山西達也・石井都・住田恵津子・仲西長代・河田祥司・樽本導和・西岡由都・小西寛・北村篤子（2012）「小学校で実習を行う教育実習生のための教育実習自己評価シートの開発」香川大学教育実践総合研究、第24号、pp.47－56

付記

本研究は、香川大学教育学部・附属学校園共同研究機構が行う2011年度の学部・附属学校園共同研究プロジェクトの一環として実施された。

教育実習全般に関する自己評価シート (2011年度)

番 号	氏 名	担当 学級	年 組
--------	--------	----------	--------

記入 日	月	日	実習 担当 点検
---------	---	---	----------------

この自己評価シートは、今週1週間の教育実習をふり返ることを通して、教育実習の目的を再確認したり、次週
の教育実習でのあなた自身の目標や今後の検討課題を明らかにすることを目的とします。言うまでもなく、
教育実習の評価とは関係がありません。担当の先生に提出しますが、それは、記入していることを確認するため
です。
本シートに記載されていないけれども、大切な項目も多くあります。指導の先生や教育実習生からの指摘や助言
などで気づいた項目があれば空欄に記入し、それも含めて自己評価しましょう。
その後、シートはファイルに綴じて保管しましょう。

以下に示したA～Fの各項目について、あなたの現時点での達成の程度を自己評価してください。
評価は、5～1の内、あてはまると思う番号1つに○をつけてください。
選択肢の番号は、以下の通りです。まちがいがないように注意してください。

5：よく達成している、 4：どちらかというと達成している、 3：どちらともいえない
2：どちらかというのと達成していない、 1：ほとんど達成していない

項 目	よく達成している	←	自己評価	→	ほとんど達成していない
B 児童・生徒の発達に応じた対応をする	5	4	3	2	1
①児童・生徒の発達に応じた対応をする	5	4	3	2	1
②休み時間などに児童・生徒と遊ぶ	5	4	3	2	1
③目立たない児童・生徒にも関わる	5	4	3	2	1
④児童・生徒と積極的にコミュニケーションをとる	5	4	3	2	1
⑤カウンセリングガイドをもって児童・生徒に接する	5	4	3	2	1
⑥記録をとるなどして児童・生徒の実態を把握し理解する	5	4	3	2	1
⑦児童・生徒の行動・行為の背景を推察する	5	4	3	2	1
5	4	3	2	1	1
C ①朝の会や帰りの会を運営・指導する	5	4	3	2	1
②給食や清掃の指導をする	5	4	3	2	1
③児童・生徒に公平に関わる	5	4	3	2	1
④児童・生徒の出席や健康状態を把握する	5	4	3	2	1
⑤学級や学校の行事などの場で児童・生徒の集団を指導する	5	4	3	2	1
⑥学級集団の特徴を理解する	5	4	3	2	1
⑦児童・生徒の行動・行為などを適切にほめる	5	4	3	2	1
5	4	3	2	1	1
D ①実習生仲間と一緒に教材や指導案を検討する	5	4	3	2	1
②教育実践を相互に検討し合う	5	4	3	2	1
③指導教員や他の実習生の指導・助言を受け入れる	5	4	3	2	1
④場に応じてリーダーシップをとる	5	4	3	2	1
⑤他の実習生と協力して学級での諸活動を進める	5	4	3	2	1
⑥他の実習生と協力して学校での諸活動を進める	5	4	3	2	1
⑦所属学校の先生方と協力して諸活動を進める	5	4	3	2	1
5	4	3	2	1	1

項 目	よく達成している	←	自己評価	→	ほとんど達成していない
A ①教育や教職の重要性を理解する	5	4	3	2	1
②個人情報管理や守秘義務について理解し実行する	5	4	3	2	1
③教育の場に応じた服装や態度、言葉遣いをする	5	4	3	2	1
④挨拶をするなど場に応じて振る舞う	5	4	3	2	1
⑤専門知識とは異なる教科や教育活動などにも関心を持つ	5	4	3	2	1
⑥教育の今昔について考えをもつ	5	4	3	2	1
⑦毎日、歩数録を整理し記入する	5	4	3	2	1
⑧健康状態や時間などを自己管理する	5	4	3	2	1
⑨自分の行った教育活動をふり振り返り教育実践力を高めようとする	5	4	3	2	1
5	4	3	2	1	1

項 目	自 己 評 価				
	よく達成している	←	→	ほとんど達成していない	
E 授業の観察	5	4	3	2	1
①本時の目標を理解して授業を観察する	5	4	3	2	1
②児童生徒の様子に注目して授業を観察する	5	4	3	2	1
③記録をとりながら授業を観察する	5	4	3	2	1
④教材研究の観点から権数の改良・改善点に気付く	5	4	3	2	1
⑤指導方法の観点から権数の改良・改善点に気付く	5	4	3	2	1
⑥観察した授業について権数の優れた点に気付く	5	4	3	2	1
⑦授業後の討議に積極的に参加する	5	4	3	2	1
F 授業づくり	5	4	3	2	1
①教材研究を行う	5	4	3	2	1
②指導案を作成する	5	4	3	2	1
③授業を実施する	5	4	3	2	1
④自分の実施した授業を検討する	5	4	3	2	1

* 記入もれがないか確かめてください。確かめたらチェック →

* 次のページに続きます。

◎ 下の表に、これまでの1週間の反省を書きましょう。

達成できなかったこと	達成できたこと
これまでの1週間の反省をふり返って	

◎ これからの1週間の目標や今後の検討課題を書きましょう。

授業について	
授業以外の教育活動について	

授業の実施に関する自己評価シート

このシートは、授業作りの際の教材研究や指導案作成、そして実施した授業をふり返ることによって、今後の課題を発見したり目標を明確にしたりすることを目的としています。それぞれの項目に従って自己評価をしてください。また、ここに記載されていない項目などについても、検討を深めてください。

番号			氏名			記入日	月	日
学級	年	組	授業日	月	日 (曜日)	第	校時	
教科など			単元など					
本時の目標								

○記入方法：次のページ以降について、該当すると思う欄を赤鉛筆で囲んでください

○空欄には、評価の理由や記述されていないが気をつけたい事項などをできるだけメモしましょう

指導 教員 点検	
----------------	--

① 児童・生徒の実態把握・授業内容の理解・教材研究・教材作成

	D	C	B	A
児童・生徒の実態把握	他の実習生の授業や休み時間の児童・生徒の様子を観察している。	他の実習生の授業や休み時間の児童・生徒の様子を観察し、児童・生徒の反応や行動の傾向を把握しようとしている。	他の実習生の授業や休み時間の児童・生徒の様子を観察、必要な場合には調査を行うなどして、個々の児童・生徒の反応や行動の傾向を把握しようとしている。	他の実習生の授業や休み時間の児童・生徒の様子を観察、必要な場合には調査を行うなどして、個々の児童・生徒の反応や行動の傾向をおおよそ把握している。
教科書などの内容理解（教科書などがある場合）	教科書や教師用指導書を読んでいる。	教科書や教師用指導書を読み、その内容をおおよそ理解している。	教科書や教師用指導書を読み、本時の授業に必要な知識や技能を理解・習得している。	教科書や教師用指導書を読み、本時の授業に必要な知識・技能だけでなく、単元を通して、あるいは前後の学年で扱われる本時に関連する内容についてもおおよそ理解している。
教材研究に関わる教科書や指導書以外の資料、情報などの利用・活用	本時に関連する資料、情報などを検索している。	本時に関連する資料、情報などを読んでいる。	本時に関連する資料、情報などをみ、教材研究に利用している。	本時に関連する資料、情報などをみ、複数の視点から教材研究を行うなど、教材研究に利用・活用している。
教材研究・教材作成	本時の授業に該当する教科書や資料を読んでいる。	本時の授業内容をおおよそ理解し教材研究を行っている。	本時の授業内容を理解し、児童・生徒の実態をおおよそふまえて教材研究をしたり教材を作成したりしている。	本時の授業内容を理解し、児童・生徒の実態を十分ふまえて教材研究をしたり教材を作成したりしている。

② 指導案の作成

	D	C	B	A
指導案の書式・指導案作成の目的	指導案を作成している。	指導案の書式に従って記述・作成している。	指導案作成の目的を理解し書式に従って記述・作成している。	指導案の作成目的や書式をよく理解し、それぞれの項目で適切な用語や文言を用いて記述・作成している。
教材観・児童・生徒観・指導観・単元目標・学習指導計画	それぞれの項目を記述している。	それぞれの項目の書式に従って記述している。	それぞれの項目の意味を理解し書式に従って記述している。	それぞれの項目の意味をよく理解し適切な記述をしている。
本時の目標	本時の目標を記述している。	本時を通して児童・生徒につけたい力を記述している。	本時を通して児童・生徒につけたい力や到達目標を具体的に記述している。	本時を通して児童・生徒につけたい力や到達目標を焦点化し具体的に記述している。
児童・生徒の発言や行動などの予想と手だて	主要な活動について児童・生徒の反応を予想している。	主要な活動について児童・生徒の反応を複数予想している。	主要な活動について児童・生徒の反応を予想し、それへの対応・手だてを記述している。	主要な活動だけでなく他の活動についても児童・生徒の反応を予想し、それへの対応・手だてを具体的に記述している。
本時の展開	主発問や質問、指示などを記述している。	主発問や質問、指示などを、それぞれの学習活動のまとまりを考慮して記述している。	主発問や質問、指示などを、それぞれの学習活動のまとまりとつながりを考慮して記述している。	主発問や質問、指示などを、児童・生徒の意識の流れに即しそれぞれの学習活動のまとまりとつながりを考慮して記述している。
本時の評価	本時の目標を記述している。	本時の目標をもとに、児童・生徒につけたい力や到達度について記述している。	児童・生徒につけたい力や到達度について、見て取る観点や場面などを記述している。	児童・生徒につけたい力や到達度について、見て取る観点や場面などを具体的に記述している。

③ 授業の実施

	D	C	B	A
授業中の教授行為	発話	授業者の声はおおよそ明瞭である。	授業者の声は明瞭である。	授業者の声は明瞭であり、必要な間をとる、ていねいに話すなど、話し方を工夫している。
	板書	板書している。	板書計画を立て、それに従って板書しようとしている	板書計画に基づき、必要な内容を記した板書をしている。
	机間指導	机間巡視をしている。	巡視するだけでなく机間指導を行おうとしている	目的をもって机間巡視・机間指導を行おうとしている。
	発問や質問・指示	質問や指示をしている。	発問や質問、指示をし学習活動を進めている。	概ね具体的で分かりやすい発問や質問、指示をし学習活動を進めている。
	児童・生徒への対応	児童・生徒の反応や行為に気づき、対応しようとしている。	児童・生徒の反応や行為に気づき、必要な対応をとっている。	児童・生徒の反応や行為に気づき、必要な対応を取ったり他の児童・生徒の発言や行為と関連づけようとしていたりしている。
補助用具	必要な教具、用具、機器、提示物、ワークシートなどの内の一部を作成・準備し用いている。	必要な教具、用具、機器、提示物、ワークシートなどを作成・準備し用いている。	必要な教具、用具、機器、提示物、ワークシートなどを作成・準備し適切に用いている。	必要な教具、用具、機器、提示物、ワークシートなどを作成・準備し適切かつ効果的に用いている。
指導案に記入された「本時の目標」の達成	授業を進めようとしている。	本時の目標に向けて授業を進めている。	本時の目標を概ね達成しているか、達成はできなかったが残された活動を次時の課題として示している。	本時の目標を十分達成しているか、達成はできなかったが残された活動を次時の課題として明確化し、それに向けて児童・生徒の学習意欲を喚起している。